

国指定重要無形文化財 前年の実りに感謝し、その年の豊作を祈る新春の伝統行事

神戸市 妙法寺 車の里 車大歳神社の「翁の舞」 2017.1.14.夜



私の住む神戸須磨区妙法寺地区の車集落の鎮守車大歳神社に伝わる国指定無形文化財「翁舞」。

一般には「三番叟」としてよく知られている古典芸能の原型というべき、日本各地に残る民俗芸能の一つで、この摂津・播州に近い郷 妙法寺車集落の鎮守「車大歳神社」では 新春の神事・伝統行事として、毎年1月14日の夜 車の里の人たちによって上演されている。

一般的な能楽「翁」では 現在「稚児(千歳)」「翁」「三番叟」の3つの舞で構成されるのに対し、この車の「翁舞」はさらに「父の尉」が付け加わる4つの舞で構成され、古い形式の「翁」の様子をうかがわせるものとして、国の重要無形文化財に指定されている。

西神戸須磨妙法寺川が流れくだる谷筋の街道には、まだ幾つも古い里が点在し、数々の伝承が残っています。健康 walk を始めたのを機会に ちょっとそんな伝承もかじってみようこの新春この車大歳神社の「翁舞」に出かけました。

40年近く前、近くに越してきた時に1・2度見たことがあり、毎年1月14日夜行われるのは知っているのですが、お能・謡など古典芸能はからっきし駄目の門外漢。内容についてはよく判らぬままでした。



今回は インターネットで「翁舞」の演じられる内容とポイントなど予備知識も入れていたことも幸い。
ちょうど 寒波襲来の寒い夜でしたが、甘酒のおもてなしもあって 久しぶりに最後まで興味津々で 見ることができました。見たことがあるとの記憶はあるのですが、内容は本当に新鮮で 楽しい2017年新春となりました。
「三番叟」の言葉はよく聞き、おぼろげながら知っていましたが、「翁舞」の中の一つの「舞」が原型ということも恥ずかしながら初めて知りました。
翁舞が終わった午後8時過ぎにはみぞれ交じりの大雪。 滑らぬよう注意しながら 家に帰りつきました。

◎ 翁の舞 登場人物と翁舞

役者は

- ◎ 露払い：10歳ほどの少年がつとめる。 ◎ 翁（大夫）：行事の主役で戸主が務める。
- ◎ 三番叟：12歳ほどの少年がつとめる。 ◎ 父慰：翁をつとめた人が兼ねる。
- ◎ 地謡：3～4人。 ◎ 笛：2人。 ◎ 小鼓：2人。 ◎ 大鼓：1人。

翁舞では、最初に露払いの舞がある。ついで 翁太夫が面箱を開き、御神体の白刷面を着けて舞う。
そして、三番叟が一度立って舞った後、黒刷面を着け、鈴を受け取って再び舞う。
最後に、翁太夫が父尉（ちちのじょう）の面に着け換えて、舞を見せる。



稚児 露払いの舞



翁の舞



三番叟（揉ノ段）



三番叟（鈴ノ段）



父尉の舞

翁舞は、日本の伝統芸能の舞。現在の能楽の原典とされる他、古くは田楽や猿楽、あるいは人形浄瑠璃、歌舞伎、また民俗芸能などでも演じられる「儀式的祝言曲民俗芸能」として各地に伝えられている。

翁舞では一般には「稚児(千歳)」「翁」「三番叟」の3番の舞であるが、古い形では さらに「父の尉」の舞が付け加わっていて4番構成。 車大歳神社の「翁舞」もこの古い形を伝える4番構成で、江戸時代初期の古い形を伝えられているとして国の重要無形文化財として、伝承の維持保護が図られている。

翁の舞では 長寿の翁が人々の天下泰平を祈って舞い、三番叟の舞は五穀豊穡を寿ぐといわれ、足拍子に農事にかかわる地固めの躍動的な揉の段、鈴ノ段では種まきを思わせる所作があり、豊作祈願の意図がうかがえる。

翁の舞の流れ

14日の午前、神前で、神事に奉仕する人たちや翁舞保存会の役員たちはお祓いを受け、神事を無事舞い納める事を祈願した後、本殿に祀る神面 翁・黒色尉・父尉の「翁」三面を受け、行列を組んでヤドに持ち帰り、縁側より入って床の間におさめる。午後6時ごろ各員装束を整え、縁側からヤドに入り、最後の稽古の舞が舞われる。午後7時、行列を整え、小田原提灯で足元を照らしながら神社に向かって参進し、拝殿において宮司によるお祓いを受けた後、神酒をいただき笛と小鼓によって約1時間の翁舞が始まる。

翁の舞には 特にストーリーはないが、大体次のような流れだといい、呪術性が強く、車大歳神社のご神体として祀られている神面を使って「天下泰平」「国土安穩」「五穀豊穡」を祈願する。

翁の舞の中で、天下泰平・国土安穩を祈る祈祷のことが謡われ、役者が神に変身して、祝福の舞を舞う。

翁の舞の中心となっているのは、御神体として大切に扱われている老人の顔をかたどった三面の翁面をかけて舞を舞う部分で、白い翁面(白色尉)を翁太夫(シテ)が用い、また黒い翁面は三番叟が用いる。そのあとを翁太夫が白式尉のかわりに父尉の面をかけ替えて舞う。

面をかけることで神に変身し、世の安寧を祈願して舞を舞うという内容となっている。

通常の翁舞や三番叟にない「父尉」の付け加わった古い形を今に伝えていることや、現在の能楽には見られぬしぐさが随所にみられること、意味もよくわからぬ謡が残っていることなど見どころも多いといわれている。

翁の舞の詳細を書くにはちょっと謡やお能他の古典芸能の理解不足ですが、インターネット等調べて、大まかな構成と回れる内容を下記にまとめました。(理解不足・間違いあれば、お許しを)



翁の舞

三番叟の鈴の段の舞

父尉の舞

○ 舞殿・役者を清める儀式

まず最初に 翁舞が奉納する清浄な空間を準備するため、神主によるお祓いで、舞台が清められる。座についた演者一同が御神酒と洗米を頂き、身を清める儀式を行なう。

○ 翁太夫による翁舞 冒頭の呪文・祈祷の謡

翁太夫は前に置かれた神面の入った箱のひもの結びを解き、神面を取り出せるようにする。

すぐに、笛・小鼓が演奏を始め、冒頭にあたり、太夫(シテ)は御祈祷の呪文を唱える。

「とうとうたりたりら…」と呪文を唱え、続いて天地・人民の長久を祈って御祈祷の謡をうたう。

○ 稚児の露払いの舞

翁太夫の謡が終わると、稚児が大地を踏み鎮め、座を清めるための露払いの舞を舞う。

○ 翁の舞 翁太夫は「翁」の神面をかけ、祝福の言葉を唱え、舞う。

神に変身した翁太夫は、舞台中央へ進み出て、両袖を広げ、天下泰平・国土安穩の祝福の言葉を唱えると、小鼓の演奏に合わせて御祈祷の舞を舞う。舞い終わると翁面をはずし、翁面を面箱におさめる。

○ 三番叟 揉みの段

後方に控えていた三番叟が舞台に進み出て、再び座を清めるため、〔揉之段〕という躍動的な舞を舞う。

○ 三番叟 鈴の段の舞

揉みの段の舞が終わると 三番叟は、御神体である黒色尉の面をかけ、再び舞台上に進み出る。

鈴を貰い受け、その鈴を振って祝福の舞を舞う。

三番叟の舞はテンポの速い足拍子を強く踏む活発なもので、鳥飛び、種卸(たねおろし)、種蒔、面返(おもがえ)りなどの動作がある躍動的な舞。

○ 父尉の舞 翁太夫が「父尉」の神面をつけて 祝福の舞を舞う



翁の舞が行われる 車大歳神社 境内 2017.1.14.

翁舞の開始は午後7時過ぎ。寒さの厳しい夕刻6時過ぎに 家内と二人家を出て、車の集落の中を東に抜け、大歳神社へ。 境内には 集落の人や近くの人たち そしてカメラを抱えた人たちなど多くの人が集まっている。境内にはたき火がたかれ、集落の人による甘酒・お神酒の接待。 寒い夜で嬉しい。

開始まではまだちょっと時間があるので、お参りしたあと、境内の滯費を囲む。世話役の人が、いろいろ動き回って、翁舞の演者たちが今、ドヤにいることやまもなく演者たちの宮入が始まることなど教えてくれる。また、翁舞は拝殿(舞殿)で回れるのですが、その奥の本殿向いて舞われるので、見物には拝殿と奥の本殿の間に周る方がよいと教えてもらった。まもなく、演者たちがドヤを出て、大歳神社に向かったとの報が入り、いよいよ 神面を入れた箱を先頭に演者たちの宮入が始まった。



◆ 翁の舞 宮入



◆ 舞殿・役者を清める儀式

大歳神社の神主は本殿に入り、お参りし、次いで本殿に上がり、舞殿・席についている演者を祓い清める。

翁太夫の前には箱に入れられた神面がおかれている。次に座についた演者一同が御神酒と洗米を頂き、身を清める。

翁大夫は新面の入った箱の紐を解き、唇面の一つを取り出し、箱の上に置き、翁舞の準備を整える。



◆ 翁舞 冒頭 翁太夫によるの呪文・祈祷の謡

笛・小鼓が演奏を始め、約1時間の翁の舞が始まる。

まず笛二管と小鼓三丁の演奏とともに、翁大夫の「とうとうたりたりろ たりりあがりらりろ」と繰り返す不思議な謡。続いて天地・人民の長久を祈って御祈祷の謡をうたう。



◆ 稚児の露払いの舞

「よーほん、はいーいや」という掛け声がずっと響くなか、「なるは滝の水 日は照るとも・・・」と唱えながら稚児が登場。体全体を右に、左に向ける所作、後は扇を前に出して拝殿をぐるりと回って拍子を踏む。

稚児が大地を踏み鎮め、座を清めるための舞である。



◆ 翁の舞 翁太夫は「翁」の神面をかけ、祝福の言葉を唱え、舞う。

翁大夫が白式尉の面をかけた後、肘を上げるようにして、少し腕を曲げた構えで舞い始める。

最後は「千秋萬歳の。祝ひの舞なれば、一舞、舞はう萬歳楽」と・・・ 翁大夫と地謡の祝言「萬歳楽」の掛け合いがひたすら続く。



◆ 三番叟 揉みの段・鈴の段の舞

翁が舞い終わると次は三番叟の揉之段。小鼓方のひとりが大鼓に持ち変え、張扇で打ち始め、再び座を清めるため、三番叟の男の子が舞いはじめる。小鼓を打っていた時とは打って変わって、気合の入った掛け声が響く。



続いて鈴之段。御神体である黒色尉の面をかけ、再び舞台上に出て、鈴を貰い受け、その鈴を振り、祝福の舞を舞う。テンポの速い足拍子を強く踏む活発なもので、鳥飛び、種卸（たねおろし）、種蒔、面返（おもがえ）りなどの動作がある躍動的な舞を舞う。



◆ 父尉の舞

翁大夫が「父尉」の神面をつけて 祝福の舞を舞う。
現在の翁舞や三番叟ではすたれて回れなくなった舞であるが、車大歳神社の翁の舞がずっと伝承してきた古い形の翁舞を伝える舞である。
父尉の面は 翁の年老いた姿といわれる



父尉



翁



翁の舞が始まって 約 1 時間 父尉の舞で無事舞い納めとなりました。



午後8時過ぎに「翁舞」すべてが終了し、本殿に神面を戻す



午後9時過ぎに「翁舞」すべてが終了し、本殿に神面を戻して、2017年新春「車大歳神社「翁舞」」が終了しました。



外は大雪 2017.1.14夜 車大歳神社「翁舞」



外は大雪 2017.11.4夜 車大歳神社「翁舞」

大雪の中で 2017 年の車大歳神社の「翁舞」

前に見た時のことはほとんど覚えておらず、新鮮でした。 もっとも この翁舞が三番叟の原型であるのも知らずで、恥ずかしい限り。

でも 歳を取り、予備知識も多少あって、聞こえてくる地謡や舞 そしてそのしぐさもちょっぴり理解もして、うれしい2017 年車大歳神社の翁舞でした。

家内と二人 寒さに震えながらも、ああやこうやと話しながら、滑らぬよう家に戻りました。

2017.11.4.夜